

11/22
去程

生活保護 苦しき切々

全生連が集会 きょう予算要望



120人が参加した全生連の予算要求行動の全体集会。21日、東京都文京区

全国生活と健康を守る会連合会（全生連）は21日、2020年度予算に対する要求行動の全体集會を東京都内で行いました。北海道から鹿児島まで120人が参加。22日、厚生労働や文部科学など7省庁と東京電力に要望を届ける予定。

開会あいさつで吉田松雄会長代行は「安倍政権による生活保護基準引き下げがいかにでたらめだったか、裁判や運動の中で明らかになってきた」と指摘。「省庁要請で実態、要求を届けよう」と呼びかけました。

埼玉県蕨市の生活と健康を守る会副会長の富澤貞子さん（79）は「朝食は遅め、夕食を早めにとって1日2食で生活している生活保護世帯はたくさんいます。生活保護費は引き下げて消費税を上げるのはとんでもない話です」と話しました。

千葉県で生活保護を利用する女性（39）は就学費用の不安を訴えました。高校3年生の娘の大学進学に入学金や授業料など120万円が必要だ。「利用できる制度がよくわかりません。学校の先生からも確かな回答がもらえず、あちこちに相談することにも疲弊しています。どうしたらいいかわからない」

明治学院大学の河合克義名誉教授は、憲法25条（生存権）が保障する「健康で文化的な生活」の実質化を目指し、全生連と全日本民医連の各会員5000人を対象に行った生活調査の中間報告を行いました。